



turbolinux **appliance server 1.0**

Turbolinux Appliance Server 1.0 Hosting Edition

操作ガイド

製作著作

© 2004 : Turbolinux, Inc. All rights reserved.

本書の一部、または全部を著作権所有者の許諾なしに、商用目的のために複製、配布することはできません。

Turbolinux、ターボリナックスの名称およびロゴはターボリナックス株式会社の商標または登録商標です。Linux は Linus Torvalds 氏の米国および他の国における商標です。UNIX は The Open Group の米国および他の国における登録商標です。Microsoft、MS-DOS、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Macintosh、MacOS は Apple Computer, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。Adobe、Acrobat、AdobeAcrobat は Adobe Systems, Inc.の商標または登録商標です。Sun、SunMicrosystems、Java、JavaScript、Sun Cobalt、Sun Cobalt Qube は SunMicrosystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本ガイドでは、©、®、™ の表示を省略しています。ご了承ください。

4.4. ユーザの管理

ユーザの管理では、仮想サイトのユーザ管理を行います。ユーザの管理を表示するには、画面上部の「サイトの管理」タブをクリックし、次に左側のメニューから「ユーザの管理」をクリックします。



サーバ管理者でログインした場合は、「仮想サイトのリスト」メニューをクリックし、管理対象の仮想サイトを選択します。「4.3. 仮想サイトのリスト」を参照してください。

メニューが展開され、以下のサブメニューが表示されます。

- ・ ユーザのリスト
- ・ インポート
- ・ エクスポート

4.4.1 ユーザのリスト

「ユーザのリスト」では、仮想サイトのユーザ管理を行います。ユーザの追加や削除が可能です。



「ユーザのリスト」は、「ユーザの検索」と「ユーザのリスト - <仮想サイト名>」の2つのテーブルで構成されます。「ユーザの検索」テーブルでは、すでにシステムにアカウントを持つユーザの検索条件を指定できます。「ユーザのリスト - <仮想サイト名>」テーブルには、既存ユーザがリスト表示されます。

4.4. ユーザの管理

[ユーザのリスト - <仮想サイト名>] テーブルの [与えられている権限] フィールドに表示されるアイコンは次の通りです。

	シェルアクセスを許可されたユーザに表示されます。
	サイト管理者の権限を持つユーザに表示されます。
	APOP の使用が許可されたユーザに表示されます。
	サスペンド (ウェブ、メール、FTP サービスなどへのアクセスが無効) に設定されているユーザに表示されます。

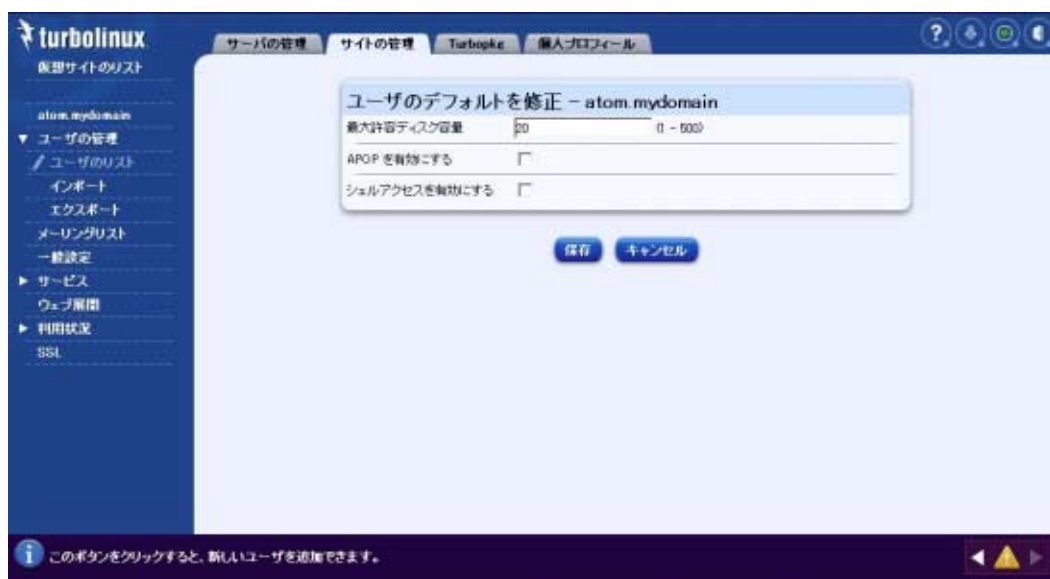
ユーザを検索するには、[ユーザの検索] テーブルのプルダウンメニューから [ユーザ名]、[氏名]、[電子メールアドレス] のいずれかを選択し、右のフィールドに検索文字列を入力します。入力完了後、[検索] ボタンをクリックすると、[ユーザのリスト - <仮想サイト名>] テーブルには、検索条件にヒットしたユーザのみが表示されます。



フィールドに指定した検索文字列を含むユーザが検索結果としてヒットします。例えば、氏名に [鈴木] と入力をした場合、「鈴木太郎」「マイク鈴木」ともにヒットします。

4.4.1.1. ユーザのデフォルトを修正

あらかじめ、ユーザのデフォルトを編集することで、新規に作成するユーザのデフォルト値を定義しておくことができます。ユーザのデフォルトを編集するには、[ユーザのデフォルトを修正] ボタンをクリックします。



〔ユーザのデフォルトを修正 ― <仮想サイト名>〕テーブルの設定項目を以下に示します。設定完了後は、〔保存〕ボタンをクリックして設定を有効にします。

最大許容ディスク容量

ユーザに使用を許可するディスク容量のデフォルト値を指定します。デフォルトの値は 20MB です。必要であれば、値を修正してデフォルト値を変更することができます。ただし、0 MB を設定することはできません。上限値は、この仮想サイトに割り当てられているディスク使用量に依存し、フィールドの右側に（1-nnn）のように表示されます。また、このフィールドを空白にすると、制限はなくなります。



ここで設定したデフォルト値は、各ユーザの設定値で上書きされます。

APOP を有効にする

新規ユーザに APOP の使用をデフォルトで許可する場合に選択します。サーバ管理者により、この仮想サイトでの APOP の使用が有効に設定されている場合のみ項目が表示されます。

シェルアクセス

新規ユーザのリモートアクセス（Telnet、SSH）をデフォルトで許可する場合に選択します。サーバ管理者により、この仮想サイトでのシェルアクセスの使用が有効に設定されている場合のみ項目が表示されます。

4.4.1.2. ユーザの追加

ユーザを追加するには、[ユーザのリスト - <仮想サイト名>] テーブルにある [追加] ボタンをクリックします。[<仮想サイト名> に新規ユーザを追加] テーブルが表示されます。



事前にユーザのデフォルトを編集しておくことで、新規に追加するユーザのデフォルト値を定義しておくことができます。詳細は、「4.4.1.1. ユーザのデフォルトを修正」を参照してください。

テーブルの設定項目を以下に示します。入力完了後は、[保存] ボタンをクリックして設定を反映してください。

氏名

ユーザの氏名を入力します。（例：山田太郎）

よみがな

[氏名] のよみがなを入力します。（例：やまだたろう）

ユーザ名

ユーザが ATOM Server Desktop にログインするためのユーザ名を入力します。



ユーザ名は Turbolinux Appliance Server システム全体で一意である必要があります。他の仮想サイトで既に使用されているユーザ名を設定することはできません。



ユーザ名は、半角英小文字、数字、ピリオド、ハイフン (-)、アンダーバー (_) の 12 文字以内で作成し、1 文字目には英小文字を指定します (例: taro)。

パスワード

ユーザが ATOM Server Desktop にログインするためのパスワードを設定します。パスワードは、タイプミスを防ぐために、2 回入力する必要があります。



パスワードは半角英数 3~16 文字で指定します。パスワード中の小文字と大文字は区別されます。アクセントが置かれた文字を使用することはできませんが、`#*,.:_-+!$%&¥|?[{0}]` は使用できます。

最大許容ディスク容量 (MB)

ユーザが使用可能なディスク容量を MB 単位で入力します。



ここでの値は、[ユーザのデフォルトを修正] で設定されたデフォルト値を上書きします (「4.4.1.1. ユーザのデフォルトを修正」参照)。

APOP を有効にする

ユーザに認証 POP (APOP) の使用を許可する場合に選択します。この仮想サイトで APOP の使用が有効に設定されている場合のみ項目が表示されます。

シェルを有効にする

ユーザのリモートアクセス (Telnet、SSH) を許可する場合に選択します。この仮想サイトでシェルアクセスが有効に設定されている場合のみ項目が表示されます。

サイト管理者

このユーザにサイト管理者の権限を委託する場合に選択します。

電子メールエイリアス (省略可)

4.4. ユーザの管理

電子メールのエイリアスを指定することができます。例えば、この仮想サイトのドメイン名が `atom.mydomain` の場合、ユーザ `taro` の電子メールアドレスは、`taro@atom.mydomain` になります。電子メールエイリアスを設定すると、このユーザは `taro@atom.mydomain` だけでなく、`taro.yamada@atom.mydomain` や `yamada@atom.mydomain` など複数の電子メールアドレスを使用できるようになります。複数のエイリアスを設定する場合は改行するか、スペースで区切り入力します。



エイリアスとして設定したユーザ名は、Turbolinux Appliance Server のユーザ名として使用できなくなりますので注意してください。例えば、ユーザ `taro` に `yamada@atom.mydomain` という電子メールエイリアスを設定すると、`yamada` というユーザを追加することはできません。

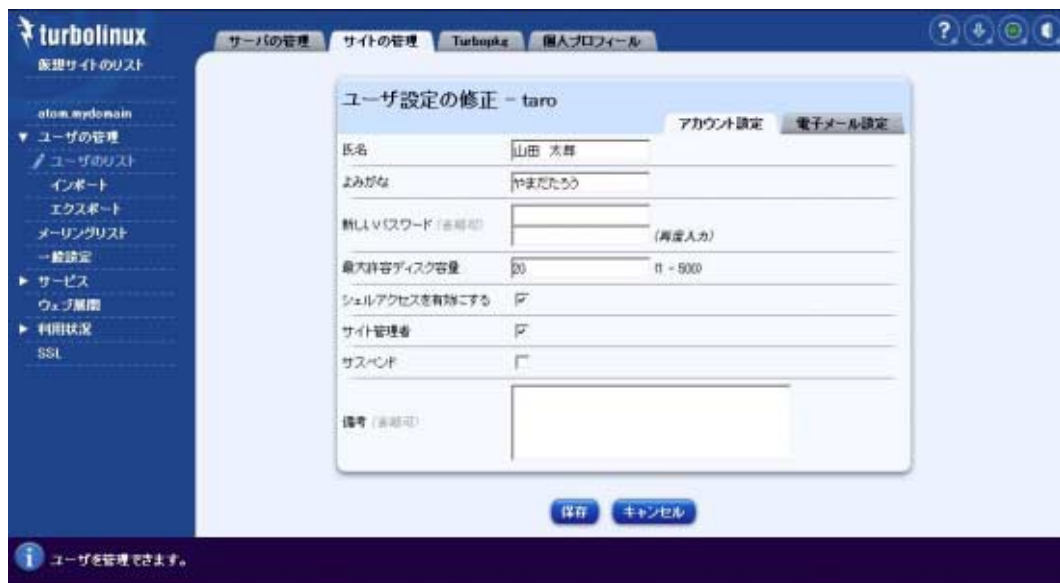
備考（省略可）

ユーザの追加情報を入力することができます。

4.4.1.3. ユーザの編集

既存ユーザの情報を修正するには、[ユーザのリスト - <仮想サイト名>] テーブルの [操作] にある  アイコンをクリックします。

クリックしたユーザの [ユーザ設定の修正] テーブルが表示されます。



The screenshot shows the 'turbolinux' web interface. The left sidebar contains a menu with 'atom.mydomain' and 'ユーザの管理' (User Management). The main content area is titled 'ユーザ設定の修正 - taro' (User Settings Correction - taro). It has two tabs: 'アカウント設定' (Account Settings) and '電子メール設定' (Email Settings). The form includes fields for '氏名' (Name) with value '山田 太郎', 'ふりがな' (Kana) with value 'やまだたろう', '新しいパスワード' (New Password) and '(再入力)' (Re-enter), '最大許容ディスク容量' (Maximum allowable disk capacity) with a slider between 0 and 5000, 'シェルアクセスを有効にする' (Enable shell access) with a checked checkbox, 'サイト管理者' (Site administrator) with a checked checkbox, 'サスペンド' (Suspend) with an unchecked checkbox, and a '備考' (Remarks) text area. At the bottom are '保存' (Save) and 'キャンセル' (Cancel) buttons. A footer message says 'ユーザを管理できます。' (You can manage users.).

〔ユーザ設定の修正〕テーブルは、〔アカウント設定〕と〔電子メール設定〕の2つのタブで構成されています。各タブの設定項目を以下に示します。設定完了後は、〔保存〕ボタンをクリックして設定を反映してください。

○ アカウント設定

〔アカウント設定〕タブの設定項目は、以下の〔サスペンド〕項目以外は〔新規ユーザの追加〕テーブルと同様です。必要に応じて既存ユーザの設定を変更することができます。「4.4.1.2. ユーザの追加」を参照してください。

サスペンド

このユーザのアカウントに関するすべてのアクセスを無効にします。このアカウントに関するTelnet、FTP、メール、ウェブアクセスはすべて使用できなくなります。このアカウント宛ての電子メールも宛先不明として処理されます。

○ 電子メール設定

〔電子メール設定〕タブをクリックすると以下のテーブルが表示されます。

〔電子メール設定〕タブの設定項目を以下に示します。

APOP を有効にする

〔新規ユーザの追加〕テーブルの設定項目と同様です。「4.4.1.2. ユーザの追加」を参照してください。

電子メールエイリアス（省略可）

「新規ユーザの追加」テーブルの設定項目と同様です。「4.4.1.2. ユーザの追加」を参照してください。

電子メール転送

「有効にする」を選択すると、このユーザ宛てに到着した電子メールを「転送先アドレス」で入力した電子メールアドレスへ自動転送することができます。複数の電子メールアドレスを転送先アドレスとして設定する場合は改行するか、カンマで区切り入力してください。

「コピーを保存」を選択しておくと、転送する電子メールのコピーが **Turbolinux Appliance Server** 上のメールボックスに残ります。選択を解除した場合は、転送する電子メールは残りません。

不在時自動応答メッセージ

この機能は、休暇などでしばらくの間メールを読めないときに便利な機能です。「有効にする」を選択すると、受信した電子メールに対して、「自動応答メッセージ」に入力されたメッセージを送信元の電子メールアドレス宛に自動的に送信することができます。



不在自動応答メッセージは、同じ送信者に対しては、1 週間に 1 通だけ送信されます。

4.4.1.4. ユーザの削除

ユーザを削除するには、「ユーザのリスト」テーブルの「操作」にある  アイコンをクリックします。削除の確認メッセージが表示されますので「OK」ボタンをクリックします。「ユーザのリスト」テーブルが更新され、削除したユーザがリストから消去されます。



ユーザを削除すると、そのユーザのファイルやディレクトリはすべて削除されます。この操作は元に戻すことはできませんので注意してください。

4.4.2 インポート

インポートでは、仮想サイトに追加するユーザをファイルから読み込むことができます。ユーザの追加は、「4.4.1.2. ユーザの追加」で行うことができますが、多くのユーザを追加したい場合、ユーザを個別に追加するのは多大な労力と時間を必要とします。そのようなときは、追加するユーザ情報を記述したユーザファイルを用意することで、ユーザをまとめて追加することができます。



ユーザファイルは単純なテキストファイルで以下の情報を持ちます。

- ・ ユーザ名
- ・ 氏名
- ・ パスワード
- ・ 電子メールエイリアス（省略可）

ファイルの書式は次のとおりです。

ユーザ名 [タブ] 氏名 [タブ] パスワード [タブ] 電子メールエイリアス（省略可） [改行]

各情報はタブで区切り、1 行につき 1 人のユーザ情報を入力します。ユーザに複数の電子メールエイリアスを設定する場合はカンマ、またはスペースで区切り続けて入力することができます。電子メールエイリアスを省略するときパスワードの次のタブは不要です。

ソースファイル

作成したユーザファイルを読み込むには、次のいずれかを選択します。

4.4. ユーザの管理

URL	チェックボックスを選択し、左のフィールドにユーザファイルの存在する URL を http:// もしくは ftp:// で指定します。
アップロード	チェックボックスを選択し、[参照] ボタンをクリックします。ご使用のウェブブラウザのファイル選択画面が表示され、ローカルディスクに保存したユーザファイルを選択することができます。

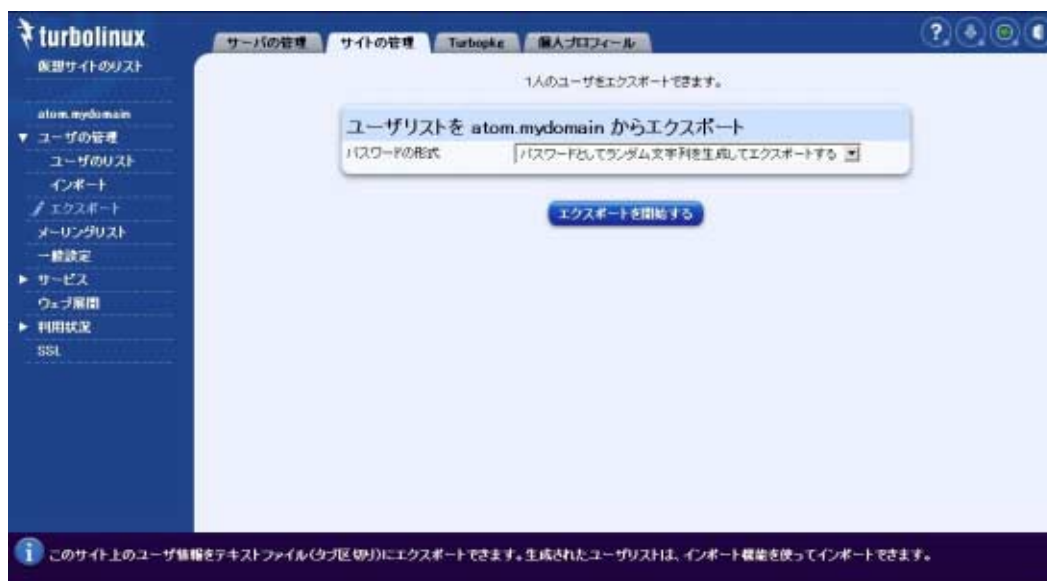
設定完了後、[インポートを開始する] ボタンをクリックすると、ユーザファイルに記述したユーザがインポートされます。



この処理は、しばらく時間がかかる場合があります。登録後のユーザは、[ユーザのリスト] テーブルで自由に修正することができます（「4.4.1 ユーザのリスト」参照）。

4.4.3 エクスポート

エクスポートでは、仮想サイト上のユーザをファイルに書き出すことができます。エクスポートされるファイルの書式は、「3.5.1.4. インポート」で解説したユーザファイルと同様です。



各ユーザのパスワードは暗号化されているため、エクスポートされたユーザファイルのパスワードフィールドに実際のパスワードを復元することはできません。そのために、ユーザファイルのパスワードフィールドに書き出す一時的なパスワードを「パスワードの形式」プルダウンメニューから選択する必要があります。

「パスワードとしてユーザ名をエクスポートする」を選択すると、エクスポートするユーザファイルのパスワードフィールドにユーザ名を使用します。「パスワードとしてランダム文字列を生成してエクスポートする」を選択すると、自動的にランダムな文字列を生成し、エクスポートするユーザファイルのパスワードフィールドに使用します。

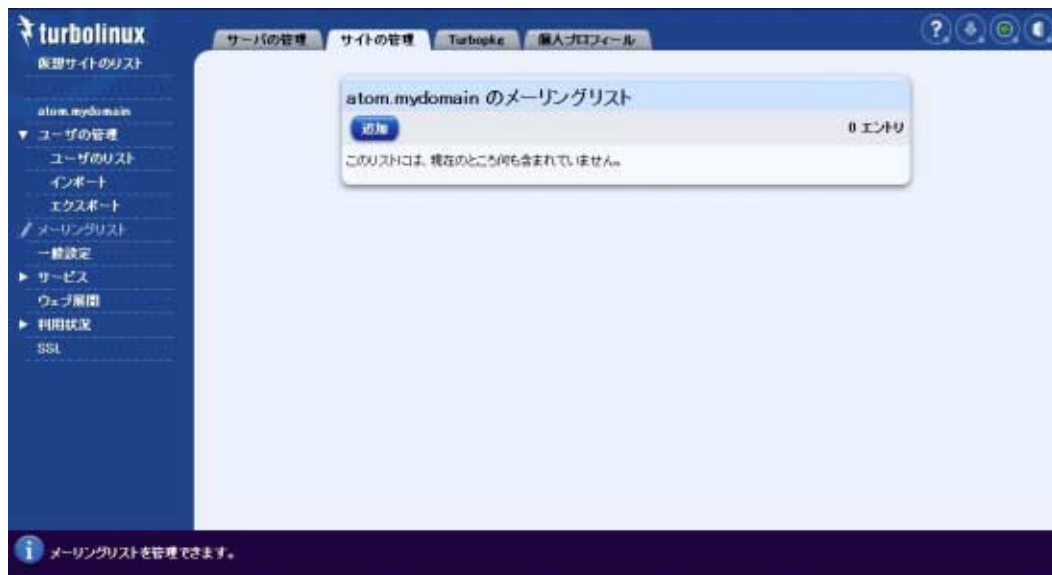
「パスワードの形式」の選択完了後、「エクスポートを開始する」ボタンをクリックしてユーザファイルをエクスポートします。ご使用のウェブブラウザのファイル選択画面が表示され、ローカルディスクにユーザファイルを保存することができます。

4.5. メーリングリスト

メーリングリストでは、仮想サイトのメーリングリストを管理します。メーリングリストを表示するには、画面上部の「サイトの管理」タブをクリックし、次に左側のメニューから「メーリングリスト」をクリックします。



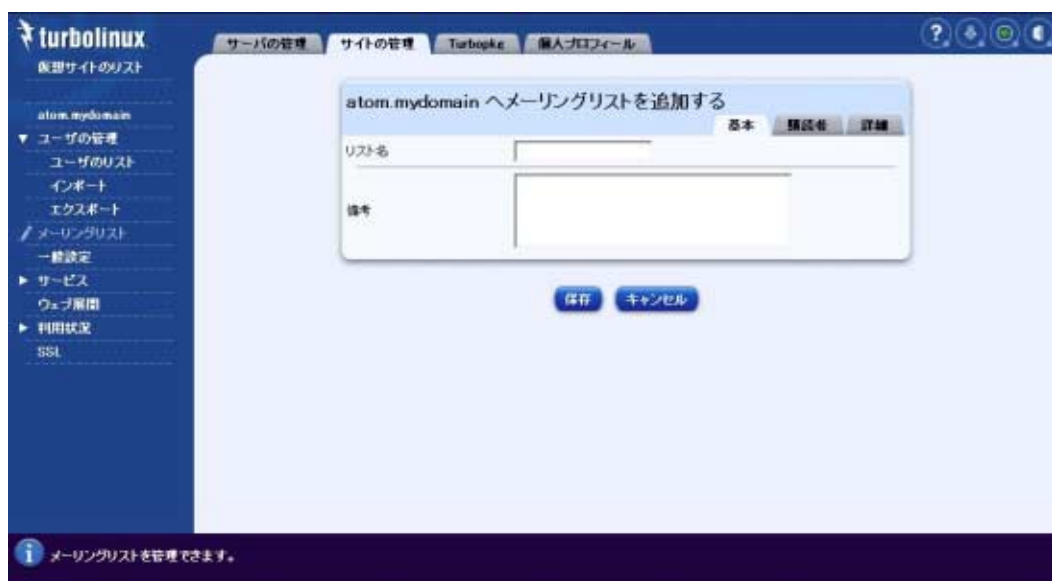
サーバ管理者でログインした場合は、「仮想サイトのリスト」メニューをクリックし、管理対象の仮想サイトを選択します。「4.3. 仮想サイトのリスト」を参照してください。



4.5.1 メーリングリストの追加

新規にメーリングリストを作成するには、[<仮想サイト名> のメーリングリスト] テーブルにある [追加] ボタンをクリックします。[<仮想サイト名> ホームページリストを追加する] テーブルが表示されます。このテーブルは、[基本]、[購読者]、[詳細] の 3 つのタブで構成されています。各タブの設定項目を以下に示します。設定完了後は、[保存] ボタンをクリックして設定を反映してください。

○ 基本



[基本] タブの設定項目を以下に示します。

リスト名

メーリングリスト名を入力します。メーリングリスト名を指定しないと、他のタブを設定することはできません。

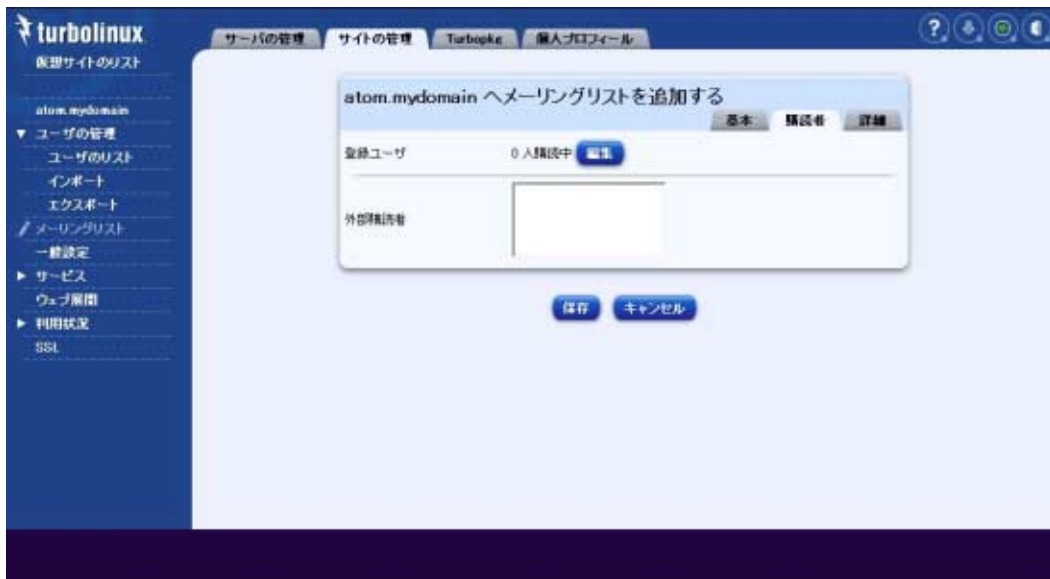


メーリングリスト名には、半角英小文字、ハイフン (-)、ピリオド、アンダーバー (_) のみ使用できます。1 文字目は半角英小文字にする必要があります。

備考

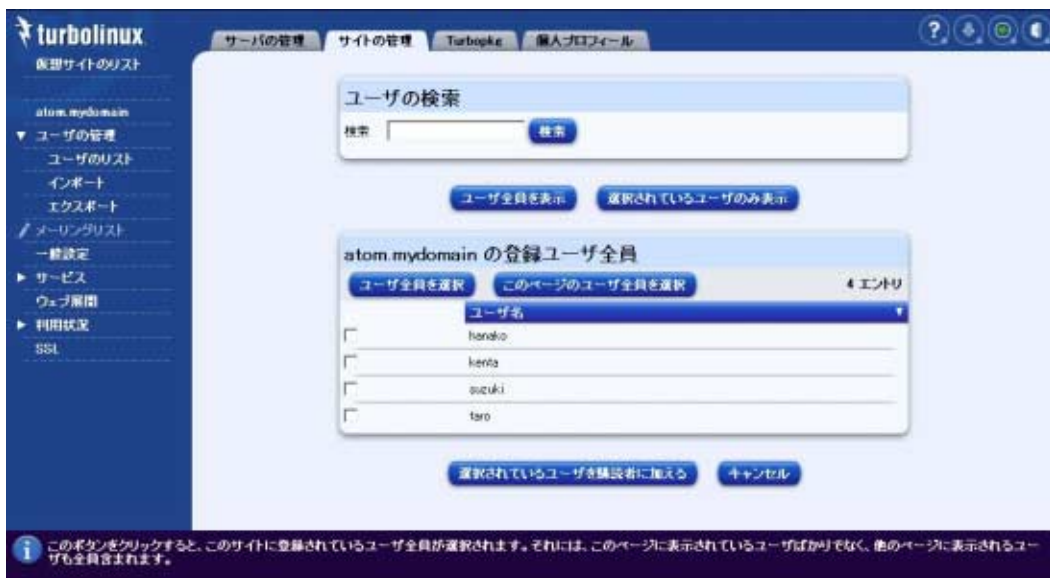
メーリングリストに関する追加情報を入力することができます。

○ 購読者



登録ユーザ

メーリングリストを購読している人数が表示されます。[編集] ボタンをクリックすると以下のテーブルが表示され、メーリングリストに登録するユーザを仮想サイトの既存ユーザから選択することができます。



このテーブルに表示されるユーザは、[ユーザの検索] テーブルでの結果や [ユーザ全員を表示]、[選択されているユーザのみ表示] ボタンをクリックすることで更新されます。

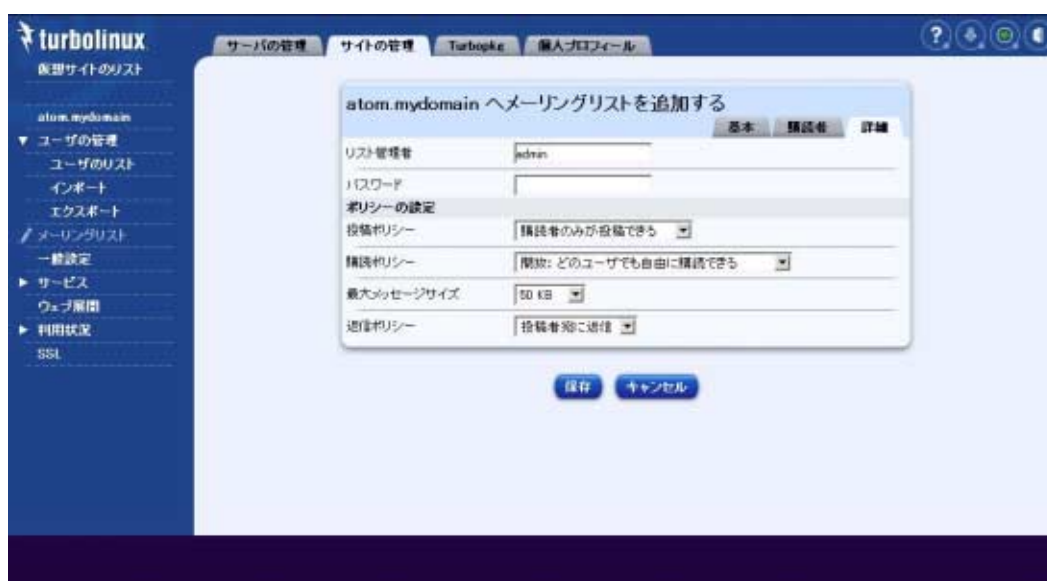
メーリングリストに登録するユーザのチェックボックスを選択します。仮想サイト内の全ユーザを選択する場合には、[ユーザ全員を選択] ボタンを、表示中の全ユーザを選択する場合には、[このペ

ージのユーザ全員を選択」ボタンをクリックします。ユーザ選択後、「選択されているユーザを購読者に加える」ボタンをクリックし設定を反映します。

外部購読者

仮想サイト上に存在しない外部ユーザをメーリングリストの購読者に登録することも可能です。このフィールドには、登録する外部購読者の電子メールアドレスを入力します。

○ 詳細



リスト管理者

このメーリングリストの管理者とするユーザ名を入力します。デフォルトは、`admin` です。

パスワード

ここで指定したパスワードは、電子メールを使用して、このメーリングリストの管理タスクを行う際に必要になります。電子メールを使用してメーリングリストを管理しない場合は、空白のまま構いません。「4.5.5 メーリングリスト管理者による承認」もあわせて参照してください。

投稿ポリシー

メーリングリストにメールを送信する際のポリシーを選択します。「4.5.4 ユーザによるメーリングリストへの参加と脱退」および「4.5.5 メーリングリスト管理者による承認」もあわせて参照してください。

4.5. メーリングリスト

購読者のみが投稿できる	メーリングリストに登録されているユーザだけがこのメーリングリスト宛にメールを送信することができます。
全てのユーザが投稿できる	メーリングリストに登録されていないユーザも、このメーリングリスト宛にメールを送信することができます。
リスト管理者の許可が必要	このメーリングリストの管理者が許可したメールだけが、メーリングリストに投稿されます。

購読ポリシー

メーリングリストを購読する際のポリシーを選択します。「4.5.4 ユーザによるメーリングリストへの参加と脱退」および「4.5.5 メーリングリスト管理者による承認」もあわせて参照してください。

開放：どのユーザでも自由に購読できる	どのユーザでも自由にこのメーリングリストを購読することができます。
確認：購読には電子メールによる確認が必要	メーリングリストを購読するには、購読希望者の電子メールアドレス宛に送信される確認メールに対して、購読希望者が返信する必要があります。
限定：購読にはリスト管理者の許可が必要	メーリングリストを購読するには、このメーリングリスト管理者の許可が必要になります。

最大メッセージサイズ

メーリングリストに送信されるメールの最大サイズを選択します。[5 KB]、[50 KB]、[500 KB]、[10 MB]、[100 MB] から選択することができます。デフォルトは 50KB です。ここで選択したサイズを超えるメールが送信された場合は、[リスト管理者] で設定したメーリングリストの管理者へメールが送信されます。

返信ポリシー

返信メールのポリシーを選択します。[投稿者宛に返信]、[リスト宛に返信] から選択することができます。[投稿者宛に返信] は、メールを送信した投稿者だけにメールを返信します。[リスト宛に返信] は、メーリングリストに所属するすべてのユーザへメールが返信されます。

4.5.2 メーリングリストの修正

すでに作成されているメーリングリストの設定を変更するには、[メーリングリスト]テーブルの[操作]にある  アイコンをクリックします。クリックしたメーリングリストの[メーリングリストの修正]テーブルが表示されます。



設定項目は、[メーリングリストの追加]テーブルと同様です。「4.5.1 メーリングリストの追加」を参照してください。

4.5.3 メーリングリストの削除

メーリングリストを削除するには、[メーリングリスト]テーブルの[操作]にある  アイコンをクリックします。削除の確認メッセージが表示されますので[OK]ボタンをクリックします。[メーリングリスト]テーブルが更新され、削除したメーリングリストがリストから消去されます。

4.5.4 ユーザによるメーリングリストへの参加と脱退

メーリングリストへのユーザ登録や削除は、サーバ管理者あるいは仮想サイトのサイト管理者により行えますが、購読を希望するユーザ自身の操作によって実行することも可能です。

○ 購読を開始する

ユーザは、以下のように件名の無いメールを送り、メーリングリストの購読を要求 (subscribe) することができます。

宛先	majordomo@ドメイン名 例) majordomo@turbolinux.co.jp
本文	subscribe メーリングリスト名 例) subscribe atom-ml

メーリングリストの管理者からメールが届きます。受信するメールは対象となるメーリングリストの設定により異なりますので、受信したメールの指示に従い購読を開始することができます。

「Majordomo results」と「Welcome to メーリングリスト名」という件名のリスト追加成功という内容のメールが届いた場合には、何もせずに購読を開始することができます。これは、メーリングリストの設定で「購読ポリシー」を「開放」に設定した場合です。

「Majordomo results」と「Confirmation for subscribe メーリングリスト名」という件名の購読を確認する内容のメールが届いた場合には、受信したメールの指示に従い「Confirmation for subscribe メーリングリスト名」メールに返信します。「Welcome to メーリングリスト名」という件名のメールが届き購読を開始することができます。これは、メーリングリストの設定で「購読ポリシー」を「確認」に設定した場合です。

「Majordomo results」が届き、管理者による承認後「Welcome to メーリングリスト名」という件名のメールが届き購読を開始することができます。承認されない場合には購読を開始することはできません。これは、メーリングリストの設定で「購読ポリシー」を「限定」に設定した場合です。

○ 購読を停止する

ユーザは、次のように件名の無いメールを送りメーリングリストから自分の電子メールアドレスを削除 (unsubscribe) することができます。「Majordomo results」という件名のメールが届きメーリングリストの購読が停止されます。

宛先	majordomo@ドメイン名 例) majordomo@turbolinux.co.jp
----	--

本文	unsubscribe メーリングリスト名 例) unsubscribe atom-ml
----	---

4.5.5 メーリングリスト管理者による承認

○ 投稿内容の承認

メーリングリストの設定で「投稿ポリシー」に「リスト管理者の許可が必要」を設定している場合には、メーリングリスト宛での投稿があると管理者にメールが転送されます。管理者は以下のように承認の手続きを行い、メールを再投稿します。

1. 管理者宛てに「BOUNCE メーリングリスト名@ドメイン名 Approval required:」という件名のメールが届きます。内容を確認します。
2. 投稿を承認する場合には、必ず 1 行目に以下の内容を記述し、改行を 1 行挿入した後に投稿内容を格納したメールをメーリングリスト宛てに送信します。パスワードにはメーリングリストに設定をしたパスワードを入力します。

approved:パスワード

○ 購読ユーザの承認

「メーリングリストの設定」で「購読ポリシー」に「限定：購読にはリスト管理者の許可が必要」を設定している場合には、メーリングリストに追加の要求（subscribe）があると管理者にメールが転送されます。管理者は次のように承認の手続きを行い、ユーザをリストに追加します。

1. 管理者宛てに「APPROVE メーリングリスト名」という件名のメールが届きます。内容を確認します。
2. 購読を承認する場合には、以下の内容を記述したメールをメーリングリスト宛てに送信します。パスワードにはメーリングリストに設定をしたパスワードを入力します。

approve パスワード ¥
 subscribe メーリングリスト ¥
 購読ユーザの電子メールアドレス

4.5. メーリングリスト



「購読ポリシー」に「開放：どのユーザでも自由に購読できる」または「確認：購読には電子メールによる確認が必要」を選択しているメーリングリストの場合にもユーザが追加されると管理者にメールが届きます。また、リストから削除された場合も同様です。これらに対しは特別な操作はありません。

4.6. 一般設定

一般設定では、仮想サイトに設定したホスト名、ドメイン名、IP アドレスなどを変更することができます。一般設定を表示するには、画面上部の「サイトの管理」タブをクリックし、次に左側のメニューから「一般設定」をクリックします。「仮想サイトの設定 - <仮想サイト名>」テーブルが表示されます。



サーバ管理者でログインした場合は、「仮想サイトのリスト」メニューをクリックし、管理対象の仮想サイトを選択します。「4.3. 仮想サイトのリスト」を参照してください。



この設定を変更できるのは、サーバ管理者のみです。サイト管理者がアクセスした場合は、設定値の参照のみ可能です。

仮想サイトの設定 - atom.mydomain	
IP アドレス	12.16.36.59
ホスト名とドメインネーム	atom mydomain
最大許容ディスク容量 (MB)	500 (0 ~ 4095)
ユーザの最大数	25
自動 DNS 設定	☒
サスペンド	☐

保存

このサイトの設定を修正したり、一部のサービスを設定できます。

テーブルの設定項目を以下に示します。設定完了後は、「保存」ボタンをクリックして設定を反映してください。

IP アドレス

仮想サイトの IP アドレスを入力します。

ホスト名とドメインネーム

仮想サイトのホスト名とドメイン名を入力します。



サイトの管理者は、**JPRS**（株式会社日本レジストリサービス）や **JPRS** からレジストラとして指定された登録事業者へ申請し、ドメイン名の取得、登録を行う必要があります。

最大許容ディスク容量（MB）

この仮想サイトで使用可能なディスク容量を MB 単位で入力します。

ユーザの最大数

この仮想サイトで作成できるユーザの最大数を入力します。

自動 DNS 設定

チェックボックスを選択すると、自動的に **Turbolinux Appliance Server** がこの仮想サイトのプライマリネームサーバになり、この仮想サイトの **DNS** レコードの管理が可能になります。同じドメイン名を持つウェブサーバやメールサーバの別名が定義されている場合は、これらの別名定義も自動的に設定されます。



自動 **DNS** 設定機能では、仮想サイトのドメイン名はトップレベルの **DNS** サーバに登録されません。
サイトの管理者は、**JPRS**（株式会社日本レジストリサービス）や **JPRS** からレジストラとして指定された登録事業者へ申請し、ドメイン名の取得、登録を行う必要があります。

サスペンド

この機能を有効にすると、仮想サイトで提供しているウェブサーバ、メールサーバ、**FTP** サーバなどへのアクセスを無効にすることができます。

4.7. サービス

サービスでは、仮想サイトの各種ネットワークサービスに関するオプション設定を行います。サービスを表示するには、画面上部の「サイトの管理」タブをクリックし、次に左側のメニューから「サービス」をクリックします。



サーバ管理者でログインした場合は、「仮想サイトのリスト」メニューをクリックし、管理対象の仮想サイトを選択します。「4.3. 仮想サイトのリスト」を参照してください。

メニューが展開され、以下のサブメニューが表示されます。

- ウェブ
- 匿名 FTP
- 電子メール
- シェル

4.7.1 ウェブ

ウェブでは、仮想サイトで提供するウェブサービスのオプション設定を行います。また、クライアントからのリクエストに対してウェブサーバが表示するエラーページのカスタム化についても解説します。



この設定を変更できるのは、サーバ管理者のみです。サイト管理者がアクセスした場合は、設定値の参照のみ可能です。



「ウェブ設定 - <仮想サイト名>」テーブルの設定項目を以下に示します。設定完了後は「保存」ボタンをクリックして設定を反映してください。

JSP と Servlets を有効にする

この仮想サイトが提供するウェブサイトで JSP (JavaServer Pages) と Servlets の使用を有効にするかどうかを指定します。WAR (Web Application Resources) ファイルの登録については「4.8. ウェブ展開」を参照してください。

PHP スクリプトを有効にする

この仮想サイトが提供するウェブサイトで PHP スクリプトの使用を有効にするかどうかを指定します。



PHP スクリプトの拡張子は、.php にする必要があります。

CGI (Common Gateway Interface) を有効にする

この仮想サイトが提供するウェブサイトで CGI の使用を有効にするかどうかを指定します。



CGI スクリプトの拡張子は、.pl または .cgi にする必要があります。Turbolinux Appliance Server では、/usr/bin/perl が perl へのパスになります。ファイルのアップロードには FTP クライアントを使用します。また、アップロードした CGI スクリプトは、実行権限が付与されていなければなりません。ご使用の FTP クライアントで実行権限を与えるか、telnet や ssh でログインして次のコマンドを実行する必要があります。

```
$ chmod 755 <ファイル名>.cgi
```

SSI (Server-Side Include) を有効にする

この仮想サイトが提供するウェブサイトで SSI の使用を有効にするかどうかを指定します。



SSI を使用する場合は、ファイルの拡張子を、.shtml にする必要があります。また、Turbolinux Appliance Server ではセキュリティ上の問題を配慮して SSI での exec 機能を無効にしています。

ウェブサーバの別名 (省略可)

この仮想サイトで HTTP リクエストを受付けるホスト名とドメイン名の別名を指定します。複数指定する場合は、半角カンマ (,) または半角スペースで区切ります。



自動 DNS 設定機能を有効にしている場合は、同じドメイン名を持つ別名のみ有効になります。例えば、ホスト名が atom 、ドメイン名が turbolinux.co.jp の場合、www.atom.turbolinux.co.jp や atom2.turbolinux.co.jp は有効ですが、atom.turbolinux.com や www.atom.turbolinux.com は無効です。

4.7.1.1. エラーページのカスタム化

サーバ管理者、あるいはサイト管理者は、クライアントからのリクエストに対してウェブサーバが表示する以下のエラーページをカスタマイズすることができます。これらのエラーページを表示するデフォルトの HTML は以下のディレクトリに格納されています。

`/home/sites/<仮想サイト名>/web/error/`

エラーメッセージ	ファイル名	概要
401 : 認証が必要です	401-authorization.html	.htaccess ファイルによるユーザの認証ができないときに表示されます。
403 : アクセス拒否	403-forbidden.html	リクエストのあったファイルに対し、ウェブサーバがアクセス権限をもっていないときに表示されます。
404 : ファイルが見つかりません	404-file-not-found.html	リクエストのあったファイルがウェブサーバ上に存在しないときに表示されます。
500 : サーバの内部エラー	500-internal-server-error.html	CGI が正しく実行できなかった場合などに表示されます。

4.7.2 匿名 FTP

匿名 FTP では、仮想サイトで提供する FTP サービスに対して匿名 FTP サイトを有効にするかどうかの設定を行います。



この設定を変更できるのは、サーバ管理者のみです。また、名前ベースの仮想サイトを運用している場合、匿名 FTP サイトを有効にできる仮想サイトは、1 つだけです。複数の仮想サイトが同じ IP アドレスを共有するため、複数の仮想サイトで匿名 FTP サイトを有効にすることはできません。

匿名 FTP サイトにアクセスするには、ftp、guest または anonymous というユーザで FTP サーバにログインします。パスワードを入力する必要はありません。ログイン後のカレントディレクトリは、/home/sites/<仮想サイト名>/ftp/ になります。匿名 FTP ユーザは、任意の FTP クライアントを使用して、このディレクトリに格納されているファイルをダウンロードできるようになります。



[匿名 FTP の設定 — <仮想サイト名>] テーブルの設定項目を以下に示します。設定完了後は [保存] ボタンをクリックして設定を反映してください。

匿名 FTP を有効にする

チェックボックスを選択／解除して匿名 FTP サイトの有効／無効を設定します。

最大許容アップロードディスク容量 (MB)

匿名 FTP サイトへのアップロードで使用する最大ディスク容量を MB 単位で指定します。匿名 FTP ユーザは、`/home/sites/<仮想サイト名>/ftp/incoming/` ディレクトリにファイルをアップロードすることができます。ただし、匿名 FTP ユーザはこのディレクトリ下にアップロードされたファイルにアクセスすることができません。サーバ管理者とサイト管理者のみにアクセスが許可されています。また、サーバ管理者とシェルアクセス可能なサイト管理者は、`telnet` や `ssh` を使用してもこのディレクトリ下の更新および参照を行うことができます。シェルアクセスについては「4.7.4 シェル」を参照してください。

最大同時接続者数

匿名 FTP サイトへ同時にアクセス可能な接続者数を指定します。

4.7.3 電子メール

電子メールでは、仮想サイトで提供するメールサービスのオプション設定を行います。



この設定を変更できるのは、サーバ管理者のみです。サイト管理者がアクセスした場合は、設定値の参照のみ可能です。

〔電子メール ― <仮想サイト名>〕テーブルの設定項目を以下に示します。設定完了後は〔保存〕ボタンをクリックして設定を反映してください。

APOP を有効にする

この仮想サイトが提供する POP サーバで APOP の使用を有効にするかどうかを指定します。

電子メールサーバの別名（省略可）

この仮想サイトで SMTP リクエストを受付けるホスト名とドメイン名の別名を指定します。複数指定する場合は、半角カンマ（,）または半角スペースで区切ります。



自動 DNS 設定機能を有効にしている場合は、同じドメイン名を持つ別名のみ有効になります。例えば、ホスト名が atom、ドメイン名が turbolinux.co.jp の場合、mail.atom.turbolinux.co.jp や atom2.turbolinux.co.jp は有効ですが、atom.turbolinux.com や mail.atom.turbolinux.com は無効です。

キャッチオール電子メールアドレス（省略可）

受信メールのユーザやメーリングリストが存在しないために、宛先不明となっているメールを受け取る電子メールアドレスを指定します。このフィールドを空白にすると、宛先不明のメールは受信せずに拒否するようになります。

4.7.4 シェル

シェルでは、telnet や ssh を使用したサーバへのアクセスを仮想サイトのユーザに許可するかどうかの設定を行います。



この設定を変更できるのは、サーバ管理者のみです。サイト管理者がアクセスした場合は、設定値の参照のみ可能です。



「シェルアクセスを有効にする」を選択し、「保存」ボタンをクリックするとシェルアクセスが有効になります。この機能を有効にすると、仮想サイトにユーザを追加する際に、シェルアクセスを有効にするかどうかの設定項目が表示されるようになります。シェルアクセスを許可したユーザは、telnet や ssh を使用してサーバへアクセスできるようになります。「4.4.1.2. ユーザの追加」も合わせて参照してください。

4.8. ウェブ展開

ウェブ展開では、仮想サイトでウェブアプリケーションファイルのロードや管理を行います。ウェブ展開を表示するには、画面上部の「サイトの管理」タブをクリックし、次に左側のメニューから「ウェブ展開」をクリックします。



サーバ管理者でログインした場合は、「仮想サイトのリスト」メニューをクリックし、管理対象の仮想サイトを選択します。「4.3. 仮想サイトのリスト」を参照してください。



この機能は、仮想サイトで JSP と Servlets が有効に設定されている場合のみ利用することができます。「4.7.1 ウェブ」も合わせて参照してください。

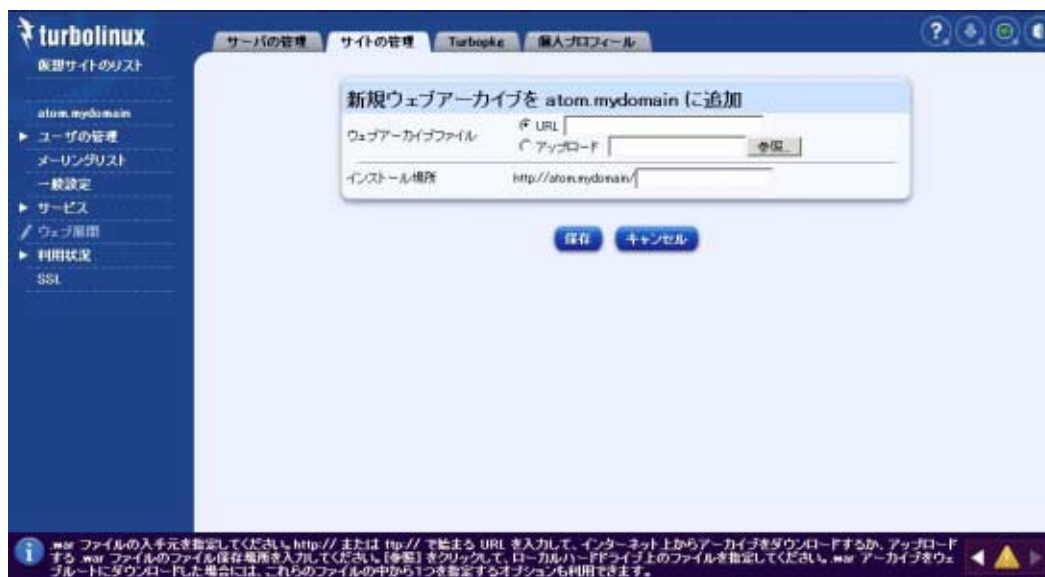
ウェブアプリケーションファイルとは、ウェブアプリケーションのすべての構成リソース（HTML ファイル、JSP ファイル、サーブレット、クラスファイル、XML ファイル、JPG や PNG といった画像ファイルなど）をアーカイブとして 1 つにまとめたファイルで、WAR（Web Application Resources）ファイルと呼ばれています。WAR ファイルは、J2EE の標準的なファイルで、他のウェブアプリケーションサーバ上で開発されたウェブアプリケーションの移行や配布を容易にします。ウェブ展開では、WAR ファイルを読み込み、容易に仮想サイト上にウェブアプリケーションを登録することができます。ウェブ展開を表示するには、画面上部の「サイトの管理」タブをクリックし、次に左側のメニューから「ウェブ展開」をクリックします。



WAR ファイルを展開する前に「4.7.1 ウェブ」を参照し、JSP と Servlets の使用を有効にしておく必要があります。



「追加」ボタンをクリックします。



〔新規ウェブアーカイブを <仮想サイト名> に追加〕テーブルの設定項目を以下に示します。設定完了後〔保存〕ボタンをクリックします。

ウェブアーカイブファイル

次のいずれかを選択し、WAR ファイルを指定します。

URL	ラジオボタンを選択し、左のフィールドに WAR ファイルの存在する URL を http:// もしくは ftp:// で指定します。
アップロード	ラジオボタンを選択し、〔参照〕ボタンをクリックします。ご使用のウェブブラウザのファイル選択画面が表示され、ローカルディスクに保存した WAR ファイルを選択することができます。

インストール場所

WAR ファイルを展開する場所を指定します。ディレクトリは必要に応じて自動で作成されます。

4.9. 利用状況

利用状況では、仮想サイトのウェブ、FTP、電子メール、ディスクの利用状況を確認することができます。利用状況を表示するには、画面上部の「サイトの管理」タブをクリックし、次に左側のメニューから「利用状況」をクリックします。



サーバ管理者でログインした場合は、「仮想サイトのリスト」メニューをクリックし、管理対象の仮想サイトを選択します。「4.3. 仮想サイトのリスト」を参照してください。



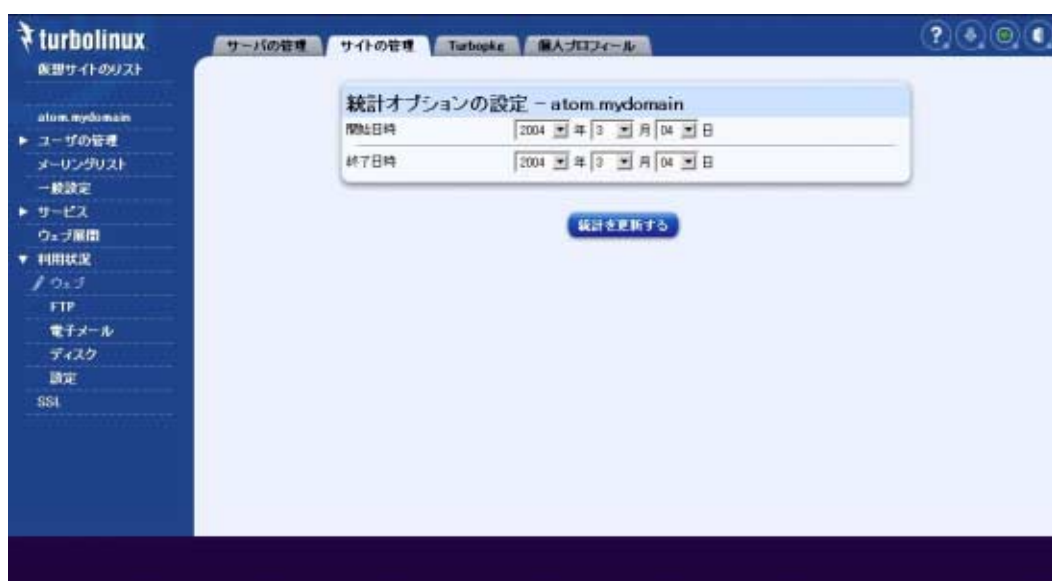
サーバ管理者によって統計情報の生成が有効に設定されている場合は、サイト管理者、サーバ管理者ともに利用状況を表示し確認することができます。統計情報の生成の有効化は、サーバ管理者のみが行えます。詳細は、「4.9.5 設定」を参照してください。

メニューが展開され、以下のサブメニューが表示されます。

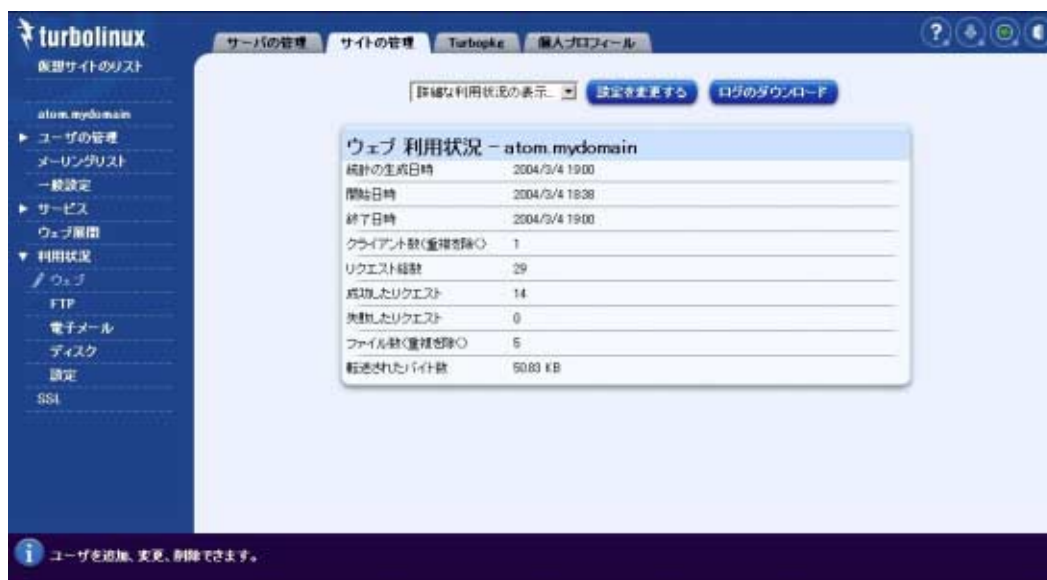
- ・ ウェブ
- ・ FTP
- ・ 電子メール
- ・ ディスク
- ・ 設定

4.9.1 ウェブ

ウェブでは、仮想サイトのウェブサーバ利用状況を集計した統計情報を表示します。画面左側のメニューから「ウェブ」をクリックすると「統計オプションの設定 - 仮想サイト名」テーブルが表示されます。



利用状況の統計情報を取得する期間を「開始日時」と「終了日時」プルダウンメニューから選択し、「統計を更新する」ボタンをクリックします。「ウェブ利用状況 — 仮想サイト名」テーブルが表示されます。



画面上部の「詳細な利用状況の表示...」プルダウンメニューから表示したい統計情報を選択します。以下の統計情報を選択することができます。

- ・ サマリー
- ・ 時間別の利用状況
- ・ 曜日別の利用状況
- ・ 毎日の利用状況
- ・ 毎週の利用状況
- ・ 毎月の利用状況
- ・ クライアントドメイン
- ・ ファイル別のリクエスト数
- ・ ファイルの種類



「設定を変更する」ボタンをクリックすると、「統計オプションの設定 — 仮想サイト名」テーブルに戻ります。

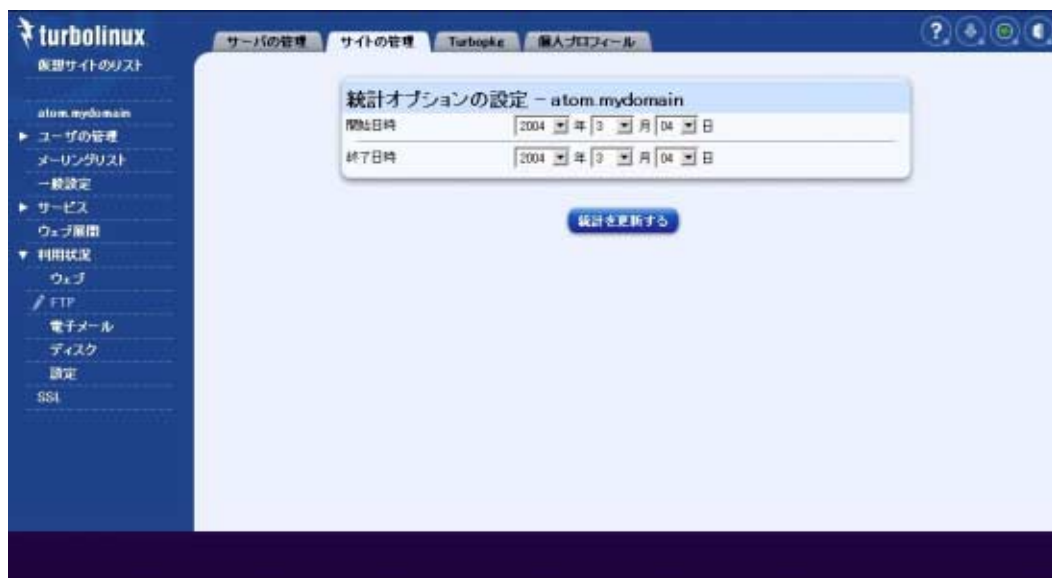


「ログのダウンロード」ボタンをクリックすると、ウェブサーバ利用状況のログファイルをダウンロードすることができます。

各統計情報の概要は、「3.8. 利用状況」と同様です。合わせて参照してください。[ファイル別のリクエスト数]は、サイトの管理でのみ表示される統計情報です。ファイルごとのリクエスト数、転送バイト、転送バイトの比率が表示されます。

4.9.2 FTP

FTP では、仮想サイトの FTP サーバ利用状況を集計した統計情報を表示します。画面左側のメニューから [FTP] をクリックすると [統計オプションの設定 - 仮想サイト名] テーブルが表示されます。



利用状況の統計情報を取得する期間を [開始日時] と [終了日時] プルダウンメニューから選択し、[統計を更新する] ボタンをクリックします。[FTP 利用状況 - 仮想サイト名] テーブルが表示されます。



画面上部の「詳細な利用状況の表示...」プルダウンメニューから表示したい統計情報を選択します。以下の統計情報を選択することができます。

- ・ サマリー
- ・ 時間別の利用状況
- ・ 曜日別の利用状況
- ・ 毎日の利用状況
- ・ 毎週の利用状況
- ・ 毎月の利用状況
- ・ クライアントドメイン
- ・ ファイル別のリクエスト数
- ・ ファイルの種類



「設定を変更する」ボタンをクリックすると、「統計オプションの設定 - 仮想サイト名」テーブルに戻ります。

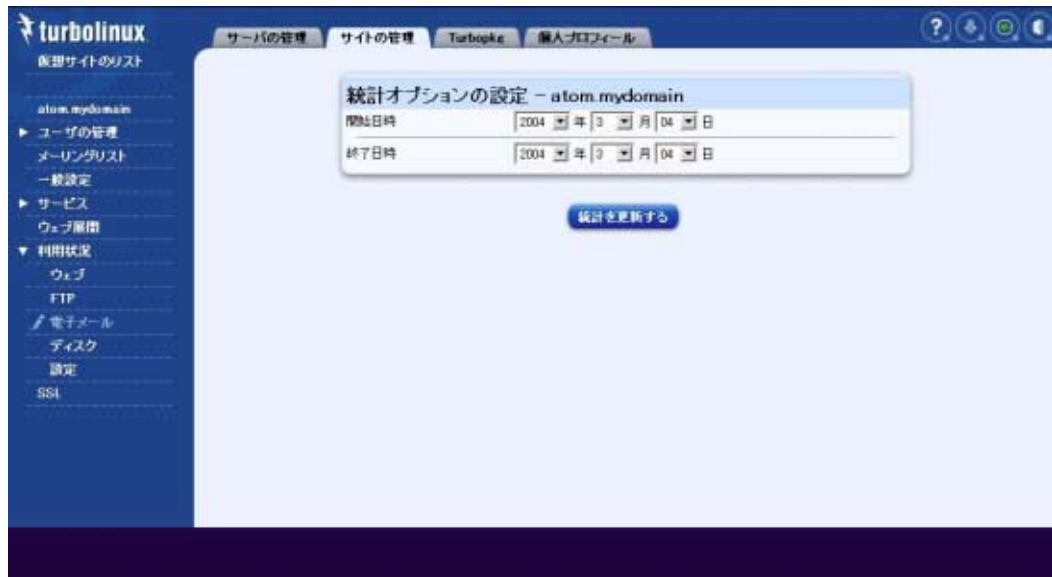


「ログのダウンロード」ボタンをクリックすると、FTP サーバ利用状況のログファイルをダウンロードすることができます。

各統計情報の概要は、「3.8. 利用状況」と同様です。合わせて参照してください。[ファイル別のリクエスト数]は、サイトの管理でのみ表示される統計情報です。ファイルごとのリクエスト数、転送バイト、転送バイトの比率が表示されます。

4.9.3 電子メール

電子メールでは、仮想サイトのメールサーバ利用状況を集計した統計情報を表示します。画面左側のメニューから「電子メール」をクリックすると「統計オプションの設定 - 仮想サイト名」テーブルが表示されます。



利用状況の統計情報を取得する期間を「開始日時」と「終了日時」プルダウンメニューから選択し、「統計を更新する」ボタンをクリックします。「電子メール 利用状況 - 仮想サイト名」テーブルが表示されます。



画面上部の「詳細な利用状況の表示...」プルダウンメニューから表示したい統計情報を選択します。以下の統計情報を選択することができます。

- サマリー
- 時間別の利用状況
- 曜日別の利用状況
- 毎日の利用状況
- 毎週の利用状況
- 毎月の利用状況
- 差出人と宛先



「設定を変更する」ボタンをクリックすると、「統計オプションの設定－ 仮想サイト名」テーブルに戻ります。

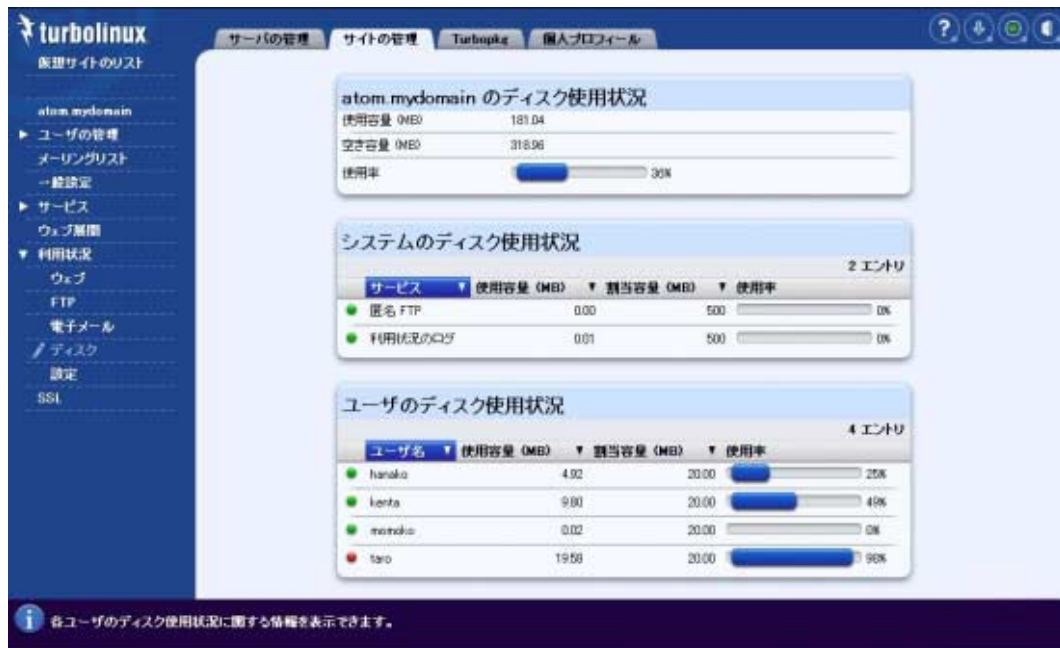


「ログのダウンロード」ボタンをクリックすると、メールサーバ利用状況のログファイルをダウンロードすることができます。

各統計情報の概要は、「3.8. 利用状況」と同様です。合わせて参照してください。「差出人と宛先」は、サイトの管理でのみ表示される統計情報です。メールの宛先ごとのリクエスト数、転送バイト、転送バイトの比率が表示されます。

4.9.4 ディスク

ディスクでは、仮想サイトのディスク使用状況を表示します。画面左側のメニューから「ディスク」をクリックします。



「ディスクの使用状況」画面は、「仮想サイト名のディスク使用状況」、「システムのディスク使用状況」、「ユーザのディスク使用状況」という 3 つのテーブルで構成されます。それぞれの区分でディスク使用状況を表示します。

○ 仮想サイト名のディスク使用状況

仮想サイトのディスク使用状況を表示します。

使用容量 (MB)

仮想サイトのディスク使用量を MB 単位で表示します。

空き容量 (MB)

仮想サイトに割り当てられたディスク容量から使用容量を引いたディスクの空き容量を MB 単位で表示します。

使用率

仮想サイトのディスク使用率を表示します。

○ システムのディスク使用状況

仮想サイトで提供されるサービスごとのディスク使用量を表示します。

サービス

ディスク使用量を表示するサービスです。

使用容量 (MB)

仮想サイトのサービスのディスク使用量を MB 単位で表示します。

割当容量 (MB)

仮想サイトのサービスに割り当てられたディスク容量を MB 単位で表示します。

使用率

仮想サイトのサービスごとの割当容量に対するディスク使用率を表示します。

○ ユーザのディスク使用状況

仮想サイトのユーザごとのディスク使用量を表示します。

ユーザ

ディスク使用量を表示するユーザ名です。

使用容量 (MB)

仮想サイトのユーザのディスク使用量を MB 単位で表示します。

割当容量 (MB)

仮想サイトのユーザに割り当てられたディスク容量を MB 単位で表示します。

使用率

仮想サイトのユーザごとの割当容量に対するディスク使用率を表示します。



最大許容ディスク容量が無制限に設定されているユーザの使用状況は表示されません。常に 0 と表示されます。

4.9.5 設定

設定では、利用状況機能の有効／無効の設定や利用状況を集計するための統計情報の管理方法に関する設定を行います。画面左側のメニューから「設定」をクリックします。



この設定を変更できるのは、サーバ管理者のみです。



「利用状況の設定 - 仮想サイト名」テーブルが表示されます。設定項目を以下に示します。設定完了後には、「保存」ボタンをクリックして変更を反映させます。

統計情報の生成を有効にする

チェックボックスを選択／解除することで、ウェブ、FTP、メールの利用状況機能の有効化／無効化を制御できます。

詳細レベル

統計情報ファイルの管理方法を「毎日」または「毎月」から選択します。この設定は、現在の月の統計情報には影響しません。「毎日」を選択すると、現在の月以前の統計情報も1日ごとに管理され、月単位未満の利用状況レポートを表示することができます。「毎月」を選択すると、統計情報は1つのファイルに月単位にまとめて管理され、現在の月以前の統計情報は、月単位の利用状況のみ表示できるようになります。一度、「毎月」を選択して統計情報を月単位にまとめてしまうと、ファイルは元に戻すことができません。「毎日」より「毎月」の方が統計情報データ容量は小さくなります。

統計情報の履歴

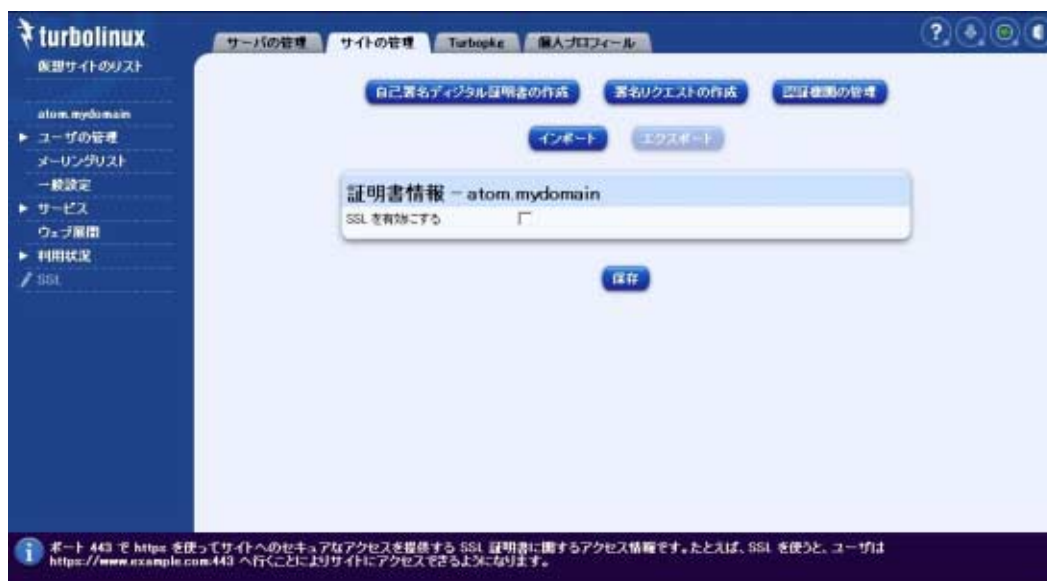
統計情報の履歴に含める期間を「永久」、「1 ヶ月」、「2 ヶ月」、「3 ヶ月」、「6 ヶ月」、「1 年」、「2 年」、「3 年」、「4 年」、「5 年」から選択します。長い期間を設定すると、統計情報ファイルの容量は大きくなります。

4.10. SSL

SSL では、仮想サイトがセキュアなウェブサーバを提供するために必要な SSL デジタル証明書の生成を行います。SSL を表示するには、画面上部の [サイトの管理] タブをクリックし、次に左側のメニューから [SSL] をクリックします。



サーバ管理者でログインした場合は、[仮想サイトのリスト] メニューをクリックし、管理対象の仮想サイトを選択します。「4.3. 仮想サイトのリスト」を参照してください。



デジタル証明書の作成後、[SSL を有効にする] を選択し、[保存] ボタンをクリックすると、この仮想サイトが提供するウェブサイトで SSL を使用した暗号化通信が有効になります。関連用語については「3.5.1 SSL」も合わせて参照してください。



SSL を有効にできるのは、サーバ管理者だけです。サイト管理者は、仮想サイトの SSL 機能が有効に設定されている場合のみ、このメニューが表示され、デジタル証明書を作成することができます。



仮想サイトの新規作成時に SSL を有効に設定している場合は、デジタル証明書を作成する必要があります。



名前ベースの仮想サイトを運用している場合、SSL を有効にできる仮想サイトは、1 つだけです。複数の仮想サイトが同じ IP アドレスを共有するため、複数の仮想サイトで SSL を有効にすることはできません。



この機能を有効にすると、ユーザは `https://<仮想サイト名>:443/` のように URL を指定することで、セキュアな暗号化通信が行えます。

4.10.1.1. 自己署名デジタル証明書の作成

新規に仮想サイトの自己署名デジタル証明書を作成するには、[証明書情報-<仮想サイト>] テーブル上部にある [自己署名デジタル証明書の作成] ボタンをクリックします。

The screenshot shows the '証明書情報 - atom.mydomain' form in the TurboLinux web interface. The form is divided into several sections: '所在地' (Location) with fields for '市町村区' (City/Town/Village), '都道府県' (Prefecture), and '国' (Country); '証明書の対象に関する情報' (Information about the certificate target) with fields for '会社/団体' (Company/Organization) and '部署名(省略可)' (Department Name, optional); 'その他の情報' (Other information) with a field for '連絡先電子メール(省略可)' (Contact email, optional); and '有効な期間' (Valid period) with a date picker. At the bottom, there are two buttons: '自己署名デジタル証明書の作成' (Create Self-Signed Digital Certificate) and 'キャンセル' (Cancel). A status bar at the bottom indicates '新規の自己署名 SSL 証明書を作成できます。' (You can create a new self-signed SSL certificate).

[証明書情報-<仮想サイト>] テーブルの設定項目を以下に示します。設定完了後は、[自己署名デジタル証明書の作成] ボタンをクリックして自己署名デジタル証明書を作成します。

市町村区

証明書を使用する会社や団体の所在／登録している市町村区の正式な名称を半角英数字で指定します。

都道府県

証明書を使用する会社や団体の所在／登録している都道府県の正式な名称を半角英数字で指定します。

国

証明書を使用する会社や団体の所在／登録している国名をプルダウンメニューから選択します。

会社／団体

この証明書を使用する会社や団体の正式な名称を半角英数字で指定します。

部署名（省略可）

この証明書を使用する会社や団体の正式な名称を半角英数字で指定します。

連絡先電子メール（省略可）

この証明書に関する情報を送信する宛先電子メールアドレスを指定します。

有効な期間

この証明書が接続クライアントに対して有効である期限を指定します。テキストボックスには数字を指定し、プルダウンメニューから単位を〔年〕、〔月〕、〔週〕、〔日〕から選択します。例えば 1 年間に設定をする場合には、テキストボックスに〔1〕を入力し、プルダウンメニューから〔年〕を選択します。この期間を過ぎると証明書の保証は期限切れになります。

4.10.1.2. CA に申請する署名リクエストの作成

CA にデジタル証明書を申請するための仮想サイトの署名リクエストを作成するには、「証明書情報-<仮想サイト>」画面上部の〔署名リクエストの作成〕ボタンをクリックします。〔署名リクエスト情報-サーバデスクトップ〕テーブルを表示します。

The screenshot shows the '署名リクエスト情報 - atom.mydomain' (Certificate Request Information - atom.mydomain) page in the Turbolinux web interface. The left sidebar contains navigation links like '仮想サイトのリスト', 'ユーザの管理', 'サービス', and 'SSL'. The main content area has a form with the following fields:

- 新規の自己署名デジタル証明 (New Self-Signed Digital Certificate) [icon]
- 書名発行 (Certificate Issuance Name)
- 所在地 (Location):
 - 市町村 (City/Town/Village)
 - 都道府県 (Prefecture)
 - 国 (Country) [dropdown menu with '国を指定してください' (Please specify the country)]
- 証明書の対象に関する情報 (Information about the certificate target):
 - 会社／団体 (Company/Group)
 - 部署名 (省略可) (Department (Optional))
- その他の情報 (Other information):
 - 連絡先電子メール (省略可) (Contact email (Optional))
 - 有効な期間 (Validity period) [text box] [unit dropdown menu]

At the bottom of the form are two buttons: '署名リクエストの作成' (Create Certificate Request) and 'キャンセル' (Cancel). A footer message states: '新規の自己署名 SSL 証明書を作成できます。' (You can create a new self-signed SSL certificate).

設定項目は「証明書情報-<仮想サイト>」テーブルと同様です。「4.10.1.1. 自己署名デジタル証明書の作成」を参照してください。必要に応じて、以下の項目を有効にすることができます。

新規の自己署名デジタル証明書を発行

チェックボックスを選択すると、署名リクエストと同時に自己署名デジタル証明書を作成します。これは、CA から証明書が発行されるまでの期間一時的に使用するためのものです。チェックボックスを解除すると署名リクエストのみが作成されます。



入力すべきデータは、利用する認証局（CA）によって決められています。署名リクエストを作成する際は、ご利用の認証局の利用条件にあわせたデータを入力してください。

設定完了後に、[署名リクエストの作成] ボタンをクリックすると、署名リクエストおよび自己署名デジタル証明書が作成されます。

4.10.1.3. 認証機関の管理

通常は、第2の認証機関は必要としませんが、中には通常のサーバ証明書に加えてクライアント認証に使用する別の証明書を発行する場合があります。クライアント認証では、認証局が発行したデジタル証明書を提示したクライアントに対してのみサーバへのアクセスを許可します。第2の認証機関を追加／削除するには、「証明書情報-<仮想サイト>」画面上部の[認証機関の管理] ボタンをクリックします。[証明書認証機関の管理-<仮想サイト>] テーブルを表示します。



設定項目を以下に示します。設定完了後は、[保存] ボタンをクリックして設定を反映させます。

追加

チェックボックスを選択して第 2 の証明機関を追加します。

証明書認証機関の名称

第 2 の証明機関を識別するためのユニークな名称を指定します。

証明書を選択

[参照] ボタンをクリックして証明機関の発行したデジタル証明書ファイルを選択します。

4.10.1.4. インポート

認証局で発行されたデジタル証明書、または他のサーバの秘密鍵とデジタル証明書を Turbolinux Appliance Server にインポートすることができます。「証明書情報-<仮想サイト>」画面上部の [インポート] ボタンをクリックします。[証明書のインポート-<仮想サイト>] テーブルを表示します。



設定項目を以下に示します。設定完了後は、[インポート] ボタンをクリックしてデジタル証明書を取りこみます。

証明書

[参照] ボタンをクリックしてインポート対象のファイルを選択します。他のサーバの証明書を転送する場合は、必ず秘密鍵と証明書を含むファイルを指定します。このサーバで作成の署名リクエストを提出した認証機関により発行されたデジタル証明書ファイルを選択する場合には、証明書データだけで構いませんが、秘密鍵が含まれていても問題はありません。

4.10.1.5. エクスポート

デジタル証明書を他のサーバで使用するために、**Turbolinux Appliance Server** からデジタル証明書と秘密鍵をエクスポートすることができます。デジタル証明書と秘密鍵をエクスポートするには、「証明書情報-<仮想サイト>」画面上部の [エクスポート] ボタンをクリックします。保存先を指定するダイアログが表示されますので、秘密鍵とデジタル証明書をファイルに出力することができます。デフォルトでは、**ssl-certificate.txt** という名前のファイルで出力されます。

謝辞

Linus Torvalds 氏をはじめとする Linux に関わるすべての皆様に心より感謝いたします。

Cobalt の優れたユーザインターフェイスの公開に尽力いただきましたサン・マイクロシステムズ社および Cobalt Users Group の皆様に心より感謝いたします。